

立石遺跡と対となる祭祀遺跡？

稲荷神社遺跡は、縄文時代後期から晩期の祭祀遺跡として有名な立石遺跡とは稗貫川を挟んで川向かいになります。

平成19年(2007)には、住宅建設に伴う発掘調査が行われ、縄文時代後期中葉の方形配石住居跡11棟、配石遺構10基、列石遺構4基、石囲炉2基などの遺構を確認し、通常の集落跡とは異なった様相をもつ遺跡です。

方形配石住居跡とした類似の遺構は、花巻市東和町の安俵6区遺跡や東北地方の各地でも見つかっていましたが、ほとんどが配石遺構として分類されています。

しかし、稲荷神社遺跡では、通常の住居跡と同じく石囲炉と柱穴を確認したため「住居」として分類しています。ただ、生活道具類があまり出土していないことから、日常的に使われていたものではないかもしれません。

稲荷神社遺跡